馬の学校通信

２０２０．６　vol.７８

発行　馬の学校

事務局　〒468-0007　愛知県名古屋市天白区植田本町 3-1105-301　TEL/FAX：052-805-2920

E-mail：mine@horseschool.org　　ホームページ：http://www.horseschool.org

フォーチュンセンターでの研修

フォーチュンセンターでの研修は 1～3 月までの 3 か月間。私は施設内にあるスタッフの寮に住まわせてもらうことになりました。私がかかわった継続教育のコース（Further Education Through Horsemanship Course）は、特別なニーズ（special needs）のある 16 歳～25 歳の青年を対象としており、1997 年当時は 31 名が寮生活をしながら、日中は４グループにわかれて活動を行っていました。馬の世話や乗馬、馬を素材にした国語、数学、理科などの基礎的学習を行い、また寮生活や余暇活動など共同生活そのものが重要な教育となっていました。私はあるグループに助手として加わりました。助手というものの、私の英語力はかなり中途半端。ゆっくり話してもらうとおおよそ理解できても、他者同士の会話は聞き取れなかったり、言いたいことはなかなか言葉にできなかったり・・・。そんな私の英語力を鍛えてくれたのは生徒たち。私の理解力にお構いなくたくさん話しかけてくれ、私の適当な英語を聞き取ってくれました。

フォーチュンセンターで印象的だったことが二つあります。一つ目は、馬に関わるあらゆることが学習に結び付けられているということ。例えば、エサの量を計ることで計算を、乗馬中の指示を聞くことで聞き取りを学ぶなどですが、馬と一緒にできることの可能性の大きさを知ることができ、後に「馬は先生、馬場が教室」という馬の学校の理念につながっていきました。もう一つは、スタッフが様々な専門性を持ち、チームとして働いていること。彼らの専門は、馬の調教師、教師、カウンセラー、作業療法士、理学療法士などですが、同時に馬に関する基礎知識や乗馬技術も持っていました。このことからは、少なくとも私自身が何らかの専門性を持つべきだと思いました。そして研修後には、ドイツにある子ども農場（馬のいる遊び場）を見学する予定でした。そのことをドイツ人スタッフに伝えると、数日後、馬のいる青少年支援センターで 1 か月間研修ができるという話を持ってきてくれたのです。ドイツ語は話せず、資金もない私に対して、英語ができればOK、住居と食事は提供するというありがたい条件で受け入れてもらえることになりました。

おすすめの本

『馬と生きる』月刊たくさんのふしぎ 2019 年 11 月号

澄川嘉彦　文　　五十嵐大介　絵

岩手県遠野市で、山から馬を使って木を運ぶ「地駄引き」をしている見方さんの生活を丁寧に描いている絵本です。地駄引きは、人と馬という生きものどうしが力を合わせ、一つになって働く仕事。地駄引きの方法、馬と暮らす「曲がり屋」のこと、馬に名前をつけないかかわりなど、「馬と生きる」とはどういうことなのかが、素敵な絵と共に伝わってきます。

馬のおもちゃ

『服を着た馬のぬいぐるみ』

娘が生まれるすいぶん前に買っていた、服を着た馬のぬいぐるみ、ドイツ製です。ぬいぐるみだらけなので、しまっていましたが、このままではもったいないと、娘の誕生日にプレゼント。服を着た馬のぬいぐるみは、これ以外には見たことがありません。ただ、服を着ているためか、馬なのに首が短いです（笑）娘は「うまふさくん」と名付け（ふさふさなたてがみの馬、ということらしい）一緒に遊んでいます。

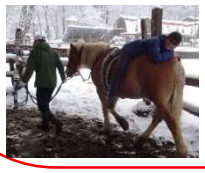
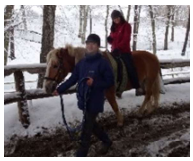
活動報告

馬とのふれあいプログラム in 愛知県森林公園（3/25）

今だからこそ馬と一緒にできることを、という思いで実施しました。3 名の参加でのんびり馬とかかわり、「いつものプログラムを楽しめること」の有難さを感じました。

ミルキーと友達になろう in 小須田牧場（3/28,29）

一般募集は行わずに、リピーターの方のみで行いました。雪が舞う中、ミルキーの背中に直接乗ると、じんわりとあたたかさが感じられました。

20 周年記念イベントは延期

7 月 18，19 日に予定していた 20 周年記念イベントは、延期とさせていただきます。これまで馬の学校に参加して下さった方、初めて参加される方、みんなが楽しめて、そして馬を通してつながる場をと思い企画を進めていました。しかし今の状況では、皆様に安全に楽しんでいただくことは難しいと判断しました。延期する日程は未定ですが、安心して参加していただくことと、準備期間も考えると来年になる可能性が高いです。よりよいものを準備したいと思いますので、楽しみにお待ち下さい。

小須田稔さんのご冥福をお祈りいたします

小須田牧場のオーナー、小須田稔さんが 4 月 5 日に天国に旅立たれました。心よりご冥福をお祈りいたします。私が初めて小須田牧場でファームステイをしたのが 29 年前、それからスタッフとなり、馬の学校のプログラムを行い、娘とも訪れ、本当に多くの時間を過ごし、その中で大切なことをたくさん学ばせていただきました。稔さんとの出逢いがなければ、私の人生は違ったものになっていただろうと思います。馬と一緒に仕事をするということはもちろんのこと、どう生きるかということでも大きな影響を受けました。

馬の学校では様々な施設のご協力のもとにプログラムを行っていますが、小須田牧場はその原点であり、そこでのプログラムがあるからこそ、他のところでもぶれずに続けることができたのだろうと思います。

「峯崎は、峯崎らしく居ろよ」稔さんにはいつもそう言われていました。そして、私が最も峯崎らしく居られるのが、小須田牧場でした。一つ一つのプログラムを積み上げていくことを支えてくれ、どんな時でも応援してくれていました。

3 月にお会いした時も「まだまだやりたいことがある」とおっしゃっていて、最後まで自分の生き方を貫かれたのだなあと思います。稔さんとの出逢いに恥じない生き方をと思います。

懐かしいウマキャンプでの一コマ。子どもたちにも大切なことをたくさん伝えて下さいました。

編集後記

前回通信を発行してから予期せぬ事態が続き、5 月のプログラム、7 月のイベントは残念ながら中止となりました。オンラインではできない馬の学校のプログラムですが、そのことに意味があると感じる日々です。時間だけでなく空間も共有し、五感をフルに働かせる活動を再開できる日が、1 日でも早く来ることを願っています。夏、秋のプログラムにつきましては状況次第となりますので、決まりましたらブログや FB でお知らせいたします。

小須田稔さんは 3 年前からがんの治療をされていましたが、「がんと闘っている暇はない」と前を見続けておられました。馬の学校のプログラムはもちろんのこと、小須田牧場で娘と過ごした日々も大切な宝物です。2 月に渡した娘からの手紙に「春を待とうね」と返事を下さり、そして約束通り春まで待って下さり、3 月末にお会いすることができました。娘は「稔さん、空の上でジョッキーたちの追い運動しているかな。」と話し、娘なりに受け止めているようです。悲しみと寂しさの中で、そんな娘とのやり取りに、救われる日々です。　　（峯崎　友香理）